

市制施行50周年記念 日野市 50 年ビジョンプロジェクト



Hino Vision 50

日野曼荼羅



絵：氏家 健太郎氏「水の郷日野―農ある風景の価値と継承」より

～50年後のわがまち日野をイメージしてみよう！～

50年ビジョンプロジェクト 各会開催経過

<平成23年度>

- | | |
|-------------|--|
| 平成24年 1月12日 | 50年ビジョンプロジェクト懇談会① |
| 平成24年 2月 6日 | 50年ビジョンプロジェクト懇談会② |
| 平成24年 2月 9日 | 日野市市政経営懇談会① |
| 平成24年 3月 8日 | 日野市市政経営懇談会② |
| 平成24年 3月17日 | 50年ビジョンプロジェクトシンポジウム① 夢のあるまち日野へ ～自分たちの想いを語ろう～ |

<平成24年度>

- | | |
|-------------|--|
| 平成24年 7月24日 | 意見交換会①(文化スポーツ分野) |
| 平成24年 7月31日 | 意見交換会②(農とみどり(環境)分野) |
| 平成24年 8月29日 | 意見交換会③(子ども分野) |
| 平成24年 9月18日 | 50年ビジョンプロジェクト懇談会③ |
| 平成24年10月15日 | 意見交換会④(商工業分野) |
| 平成24年10月29日 | 意見交換会⑤(市民活動分野) |
| 平成24年11月 6日 | 意見交換会⑥(福祉分野) |
| 平成24年11月15日 | 50年ビジョンプロジェクト懇談会④ |
| 平成24年11月29日 | 日野市市政経営懇談会③ |
| 平成25年 1月12日 | 50年ビジョンプロジェクトシンポジウム② 拝啓 未来のあなたへ ～日野のみちしるべ～ |

～Hino Vision 50 日野曼荼羅 ができるまで～

高度成長期のように人口や経済が右肩上がりて上昇し成長を遂げてきた時代とは異なり、今後の自治を的確に運営するには、少子高齢化をはじめとした様々な社会動向やグローバル化した経済動向、また経済状況に影響される財政動向など長期的な視点で予測するとともに、予測に対応した施策を展開しなければなりません。また、平成 23 年 3 月に起きた東日本大震災や原発事故を踏まえ、エネルギー政策や暮らしそのものの転換など日本全体としてどのように進むべきか岐路に立たされています。

このような状況の中、日野市においても**大規模工場の撤退**等、これまで日野市を支えてきた主要産業がなくなることによる影響は、経済はもとより市民生活に計り知れない影響を及ぼすことが予想されます。

このため、まず行政のリーダーである市長が長期的な経済の展望や今後の公共政策の課題等を把握・認識するため、市長と様々な分野の学識経験者による懇談を実施し、『**まちの進むべき姿・将来像**』を描き、今後のまちづくりの様々な施策の指針や方向性を見出していくことを目的として **50 年ビジョンプロジェクト**が立ち上がりました。

当プロジェクトは平成 24 年 1 月の学識経験者による「**50 年ビジョンプロジェクト懇談会**」を皮切りに、市内有識者による「**市政経営懇談会**」、各分野で積極的に活動され“公民協働”を体現されている市民団体と市長の「**意見交換会**」を行い、将来どのように暮らしていくか、そのためにどのような行動をしていくのかを市民のみなさまと知恵を出し合い、『**日野の将来像**』について検討してきました。

そうした数々の議論の中で浮かび上がってきたのは、今まで日野市の弱点として言われてきた「へそがない」とか「核がない」、つまりは「**中心がわからない**」ということが、実は地域ごとに特色があり、それらを日野市という集合体として俯瞰して見た時には、とても魅力的であり『**強み**』であるということでした。

そのイメージを大人から子どもまで共有するため、地域ごとの数ある特色をつなぎ、その中心に“**水**”を位置づけたこれまでの結果を複数の要素がある秩序のもとに組み合わせられ全体として何らかの世界観を表す「曼荼羅(まんだら)」に例え、

Hino Vision 50 日野曼荼羅 は作成されました。

ここがプロジェクトの“ゴール”ではありません。

市民の皆様と一緒にこれからの **50 年を歩み始めるスタート地点**に今まさに立つことができたと考えています。

プロジェクト全体図

市政経営懇談会

市内有識者7名と市長で構成
(全3回)

意見交換会

市内各分野の団体と市長の
意見交換の場
(全6分野・50団体)
文化スポーツ、子ども、農・環境
商工業、市民活動、福祉

シンポジウム

学識経験者3名と市長で実施
(全2回)

意見収集

50年ビジョン プロジェクト懇談会

学識経験者3名と市長で構成
(全4回実施)

イメージ伝達

法政大学 エコ地域デザイン研究所

製作

Hino Vision 50 日野曼荼羅



平成25年(2013年) 日野市は市制50周年を迎えました。



これまでの50年を振り返り、これからの50年を市民のみなさまと真剣に語り合い
自分はもちろん、子どもや孫の世代に『日野の宝』を引き継ぎながら
生まれて良かった・住み続けたい と思ってもらえるまちの将来像を
Hino Vision 50 日野曼荼羅 としてまとめました。

何をイメージし、どんな色付けにするか 決めるのは「みなさん」です。。。

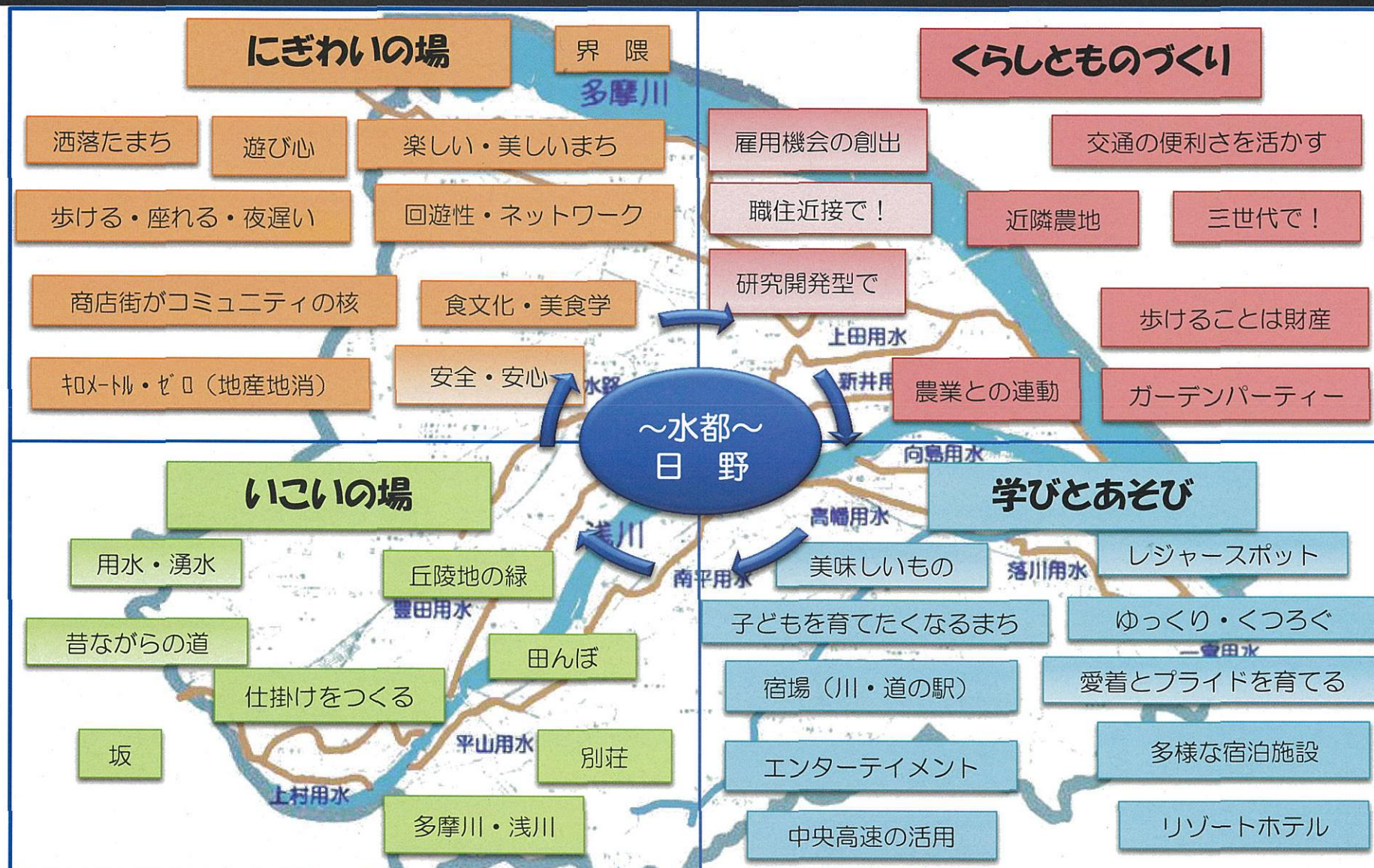
Hino Vision 50

法政大学エコ地域デザイン研究所

製作：永瀬克己+氏家健太郎

このグランドデザイン案は市長と市民の意見交換会、及び市政経営懇談会の意見も反映し、
法政大学エコ地域デザイン研究所(以下エコ研)メンバーで議論して作成されました。

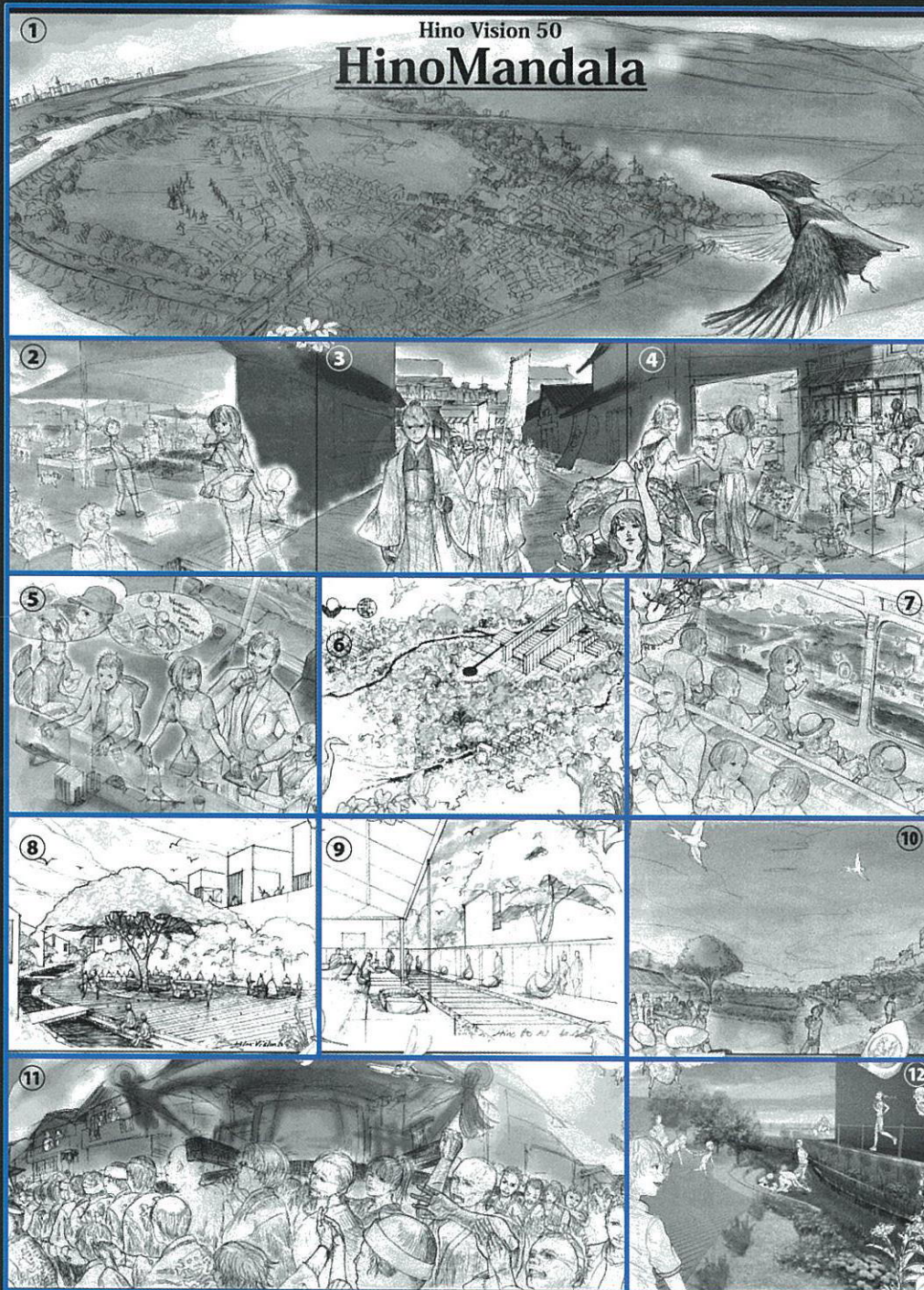
Hino Vision 50 -Hino Mandala-



Hino Vision 50 -Hino Mandala-



整理された各分野のキーワードを散りばめたイメージをHino Mandalaとして配置する。



Hino Vision 50 -Hino Mandala/Hino Layer-

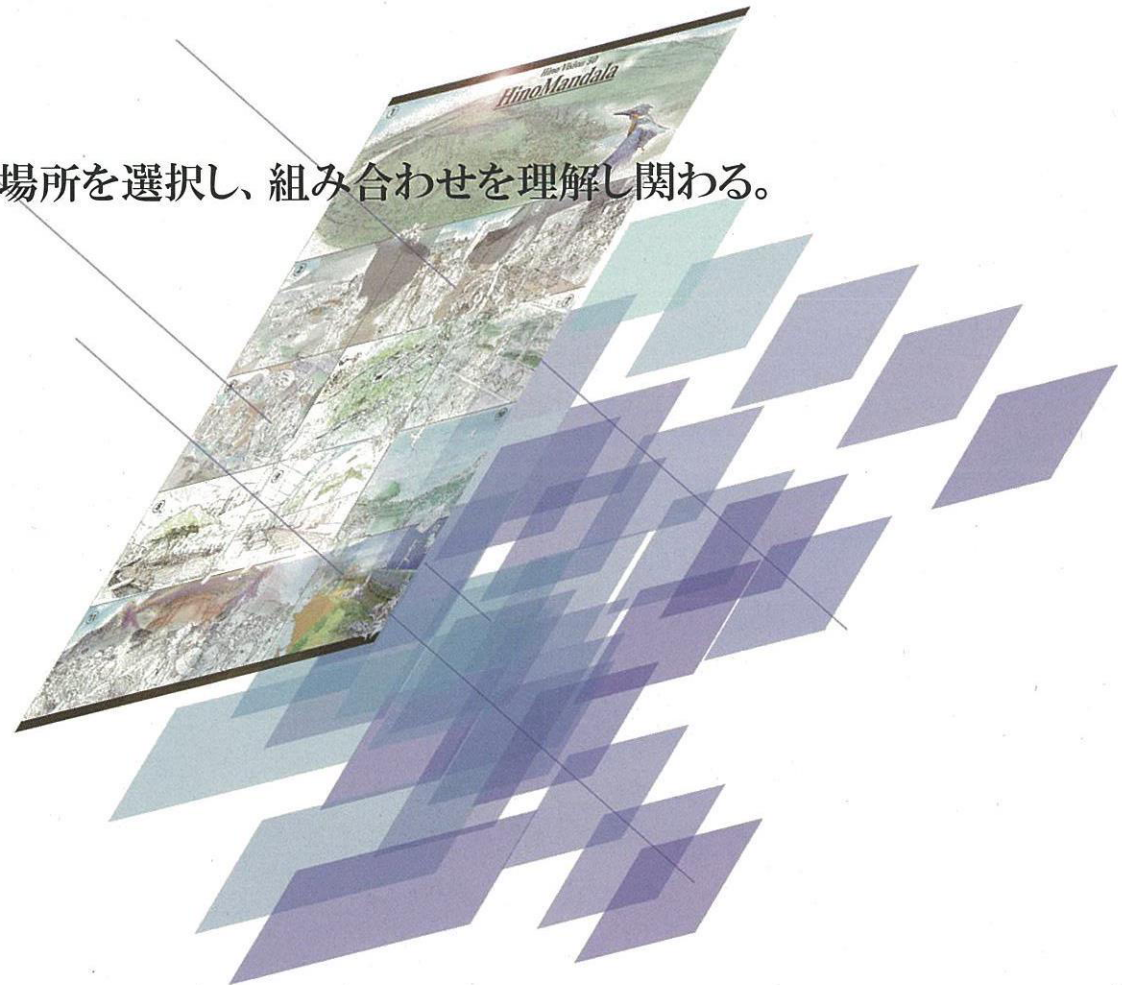
Hino MandalaにはHino Layerという歴史の深層が存在する。

様々な意味、特徴のある要素、場面からなっている。

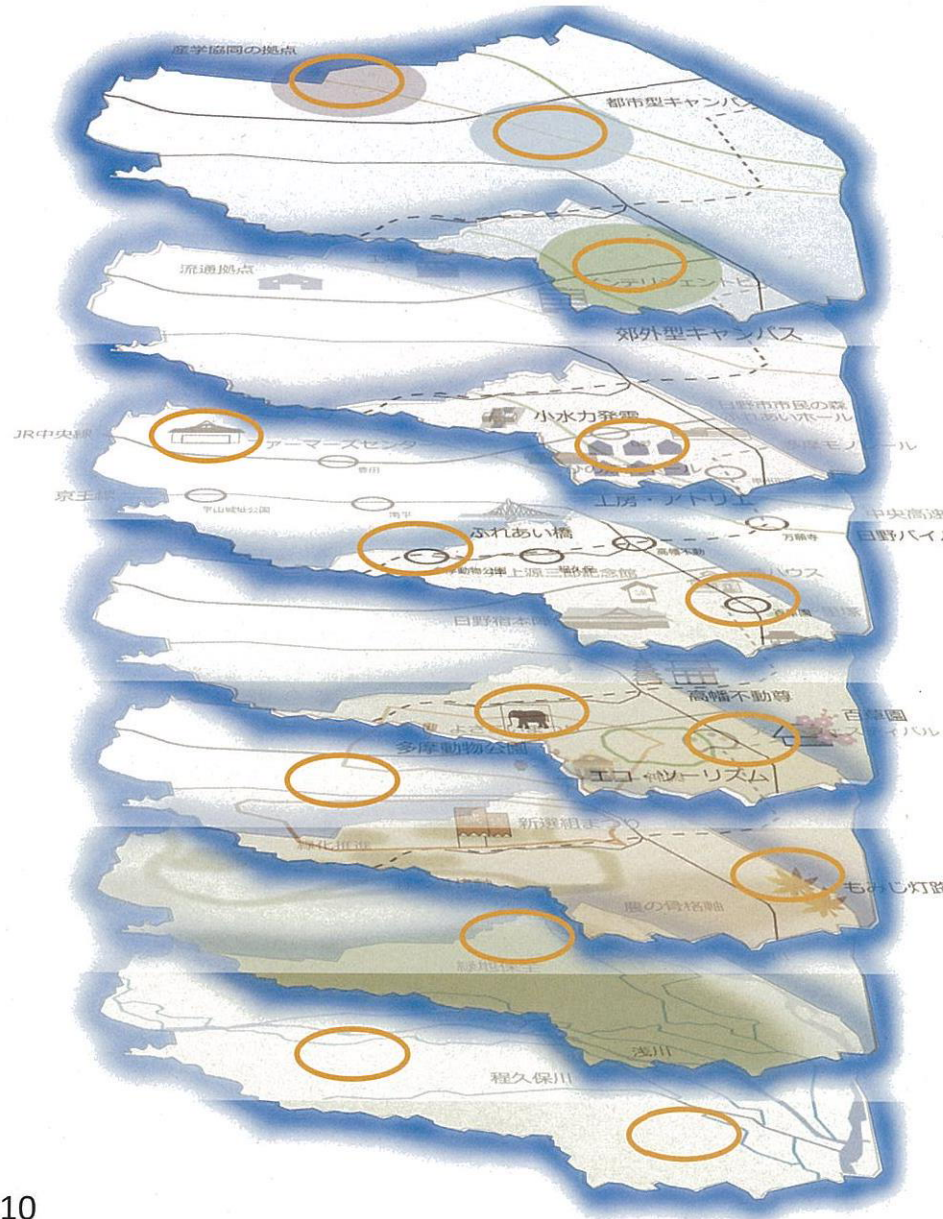
全体がつながって一つのまとまった世界を構成している。

日野そのもの。

一人一人の市民が、多様なシーン、場所を選択し、組み合わせを理解し関わる。



大地の上に生き続けている歴史の層(日野の宝)と各層の光る核



H層—将来像

(多くの核が蛍の光のようにシンクロする)

G層—研究・教育

(各種研究所・実践女子大・明星大学・首都大学東京・・・)

F層—業

(日野自動車・エプソン・GEヘルスケアジャパン・富士電機・帝人・千代田運輸・各種工房／アトリエ・各種商業・2次～産業・・・)

E層—施設

(ふれあいホール・ファーマーズセンター・ひの煉瓦ホール・ふれあい橋・・・)

D層—まつり・観光

(新選組まつり・よさこいまつり・たきびまつり・たかはたもみじ灯路・平山季重まつり・産業まつり・アートフェスティバル・さくらのつどい、ルート・エコツーリズム・・・)

C層—歴史

(高幡不動尊・石田寺・一里塚・日野宿本陣・新選組のふるさと歴史館・佐藤彦五郎新選組資料館・井上源三郎資料館・藤蔵・勝五郎生まれ変わり・百草園・多摩動物公園・・・)

B層—緑・農

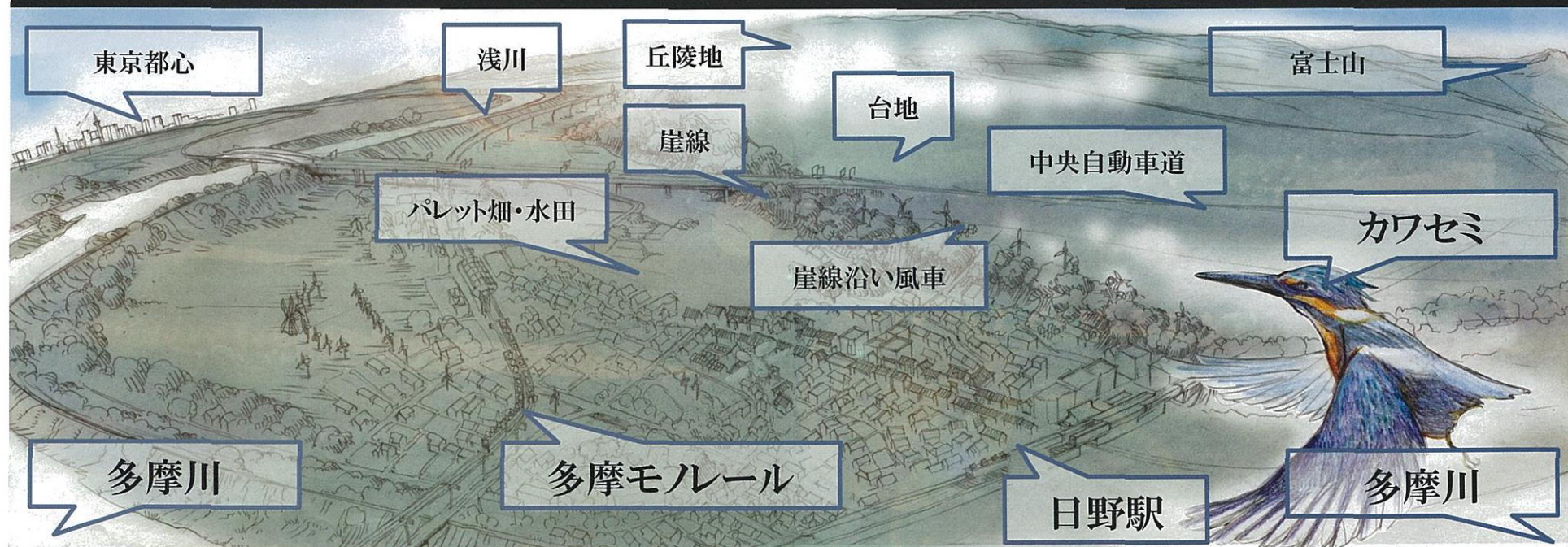
(樹林・農地・水田／なし・トマト・ブドウ・柿・百草倉沢の里山・せせらぎ農園・JA東京みなみ・・・)

A層—大地・水の形態

(台地・多摩川・浅川・程久保川・各湧水・各用水路)

Hino Vision 50 -Hino Mandala/日野俯瞰図-

- ・50年後の日野の全体を見渡す絵。
- ・東京都心と富士山を同時に見据える。
- ・人の集まる都心と雄大な自然の境界に位置する日野。ハイブリッドな特性を持つまち。
- ・世界を見渡す鳥の視点、多角的な虫の視点、魚眼視点等様々な視点、視野から日野を見る。



カワセミの視点: 人がいつの時代も目指し続けてきた俯瞰の視点。どこまでも広がる地平線。広角レンズ。グローバリゼーション。

アユの視点 : 従来の視点と異なるモノの見方。魚眼レンズ。一見くっつかないモノを繋げる視点。張り巡らされた水路からの視点。ローカリゼーション。

Hino Vision 50 -Hino Mandala/街道のまち日野-

現在でもなお上堰、下堰の水路に挟まれ、古くから多くの人の往来を見守ってきた日野宿は、歴史的、文化的、地理的視点から見て日野の生命線といっても過言ではない。この連絵では同じ場所で3つの異なる時間が同時に流れている。

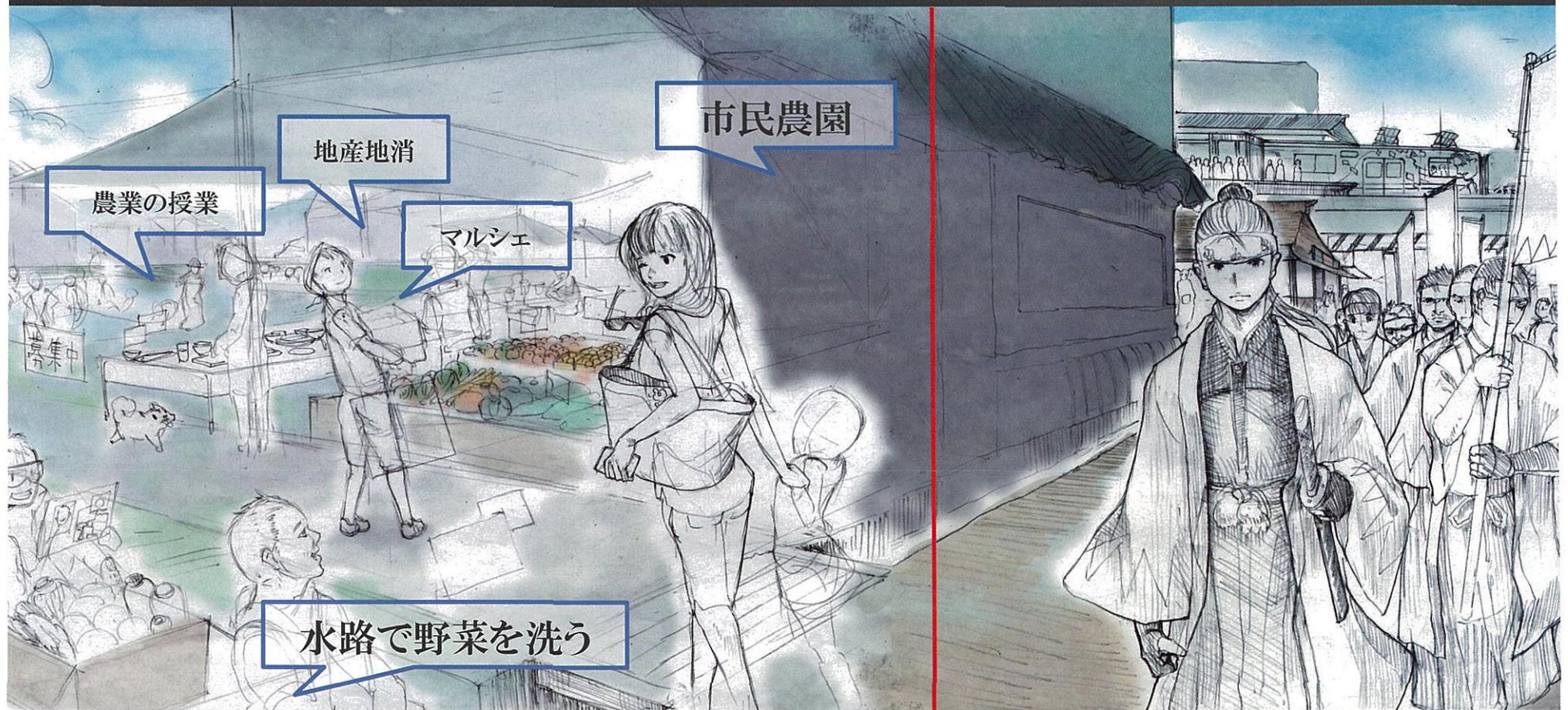


街道のまち日野は以下の三つのシーンから成り立っている。

- ・(左)「日野に広がる農地と繋がったマルシェの界限」
- ・(中)「日野の歴史的な中核となる日野宿」
- ・(右)「裏路地のオシャレな雑貨屋さん」

- ・ヒューマンスケール、人が主役のまち
- ・回遊性のある駅周辺～仲田の森へ
- ・歴史的な資産(目に見えないモノも含む。敷地割、本陣、路地、蔵、用水路、旧原宿駅から移築した駅舎)等を活かす
- ・宿場町が持ったもてなし感覚と交流の場の再生

Hino Vision 50 -Hino Mandala/日野に広がる農地と繋がったマルシェの界限-



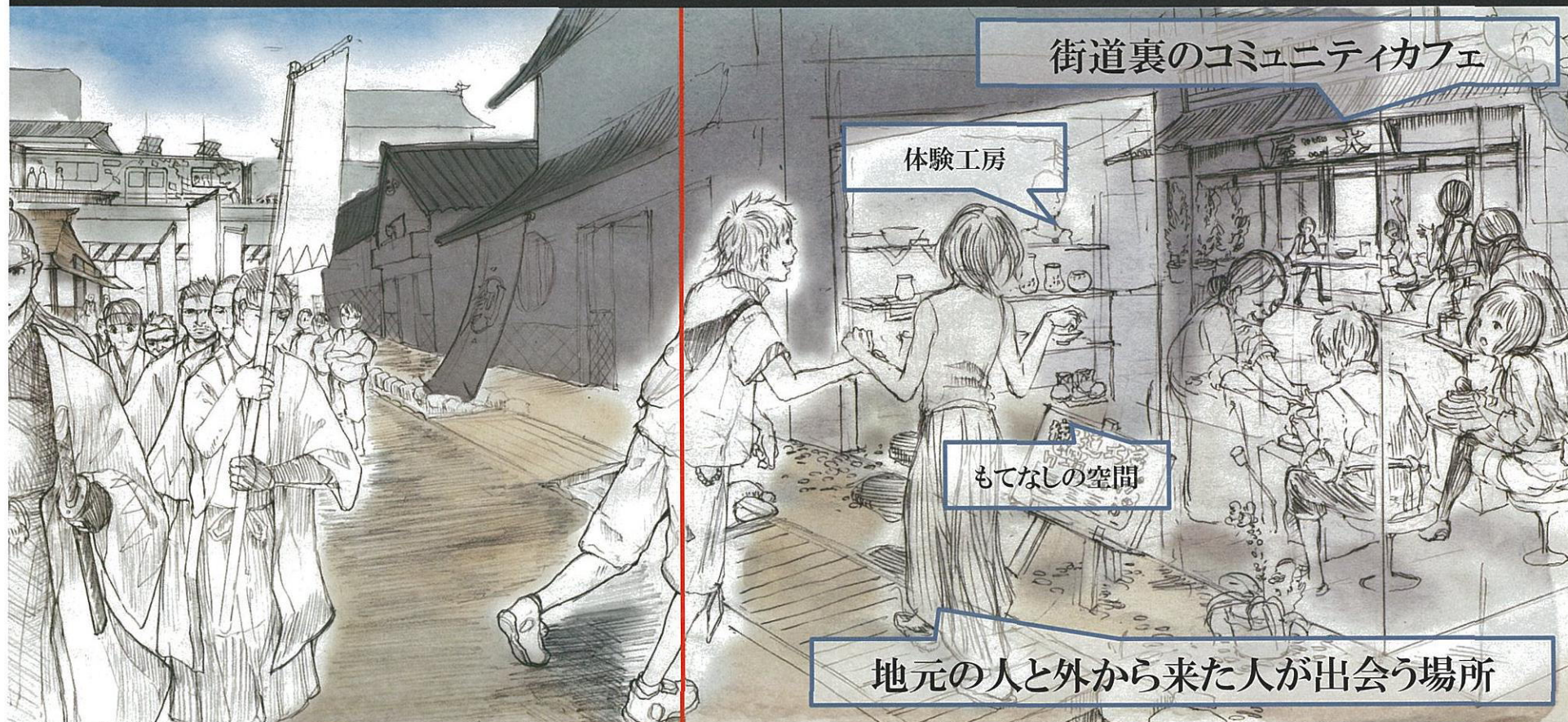
- ・日野に広がる農地と繋がったマルシェの界限
- ・農に対するビジネス感覚
- ・しゃれたスローシティ感覚をもつ交流の場、地域に開かれたサロン、農とマチが出会う文化発信の場
コミュニティ・レストラン、コミュニティ・カフェ、アンテナ・ショップ等

Hino Vision 50 -日野曼荼羅・日野の歴史的中核となる日野宿-



- ・様々なイベントが行われる場所へ
- ・歴史的な資産(目に見えないモノも含む。敷地割、本陣、路地、蔵、用水路、旧原宿駅から移築した駅舎)等を活かす
- ・回遊できるアーバンコア
- ・学生、サラリーマンOB、主婦さまざまなジェネレーションの参加

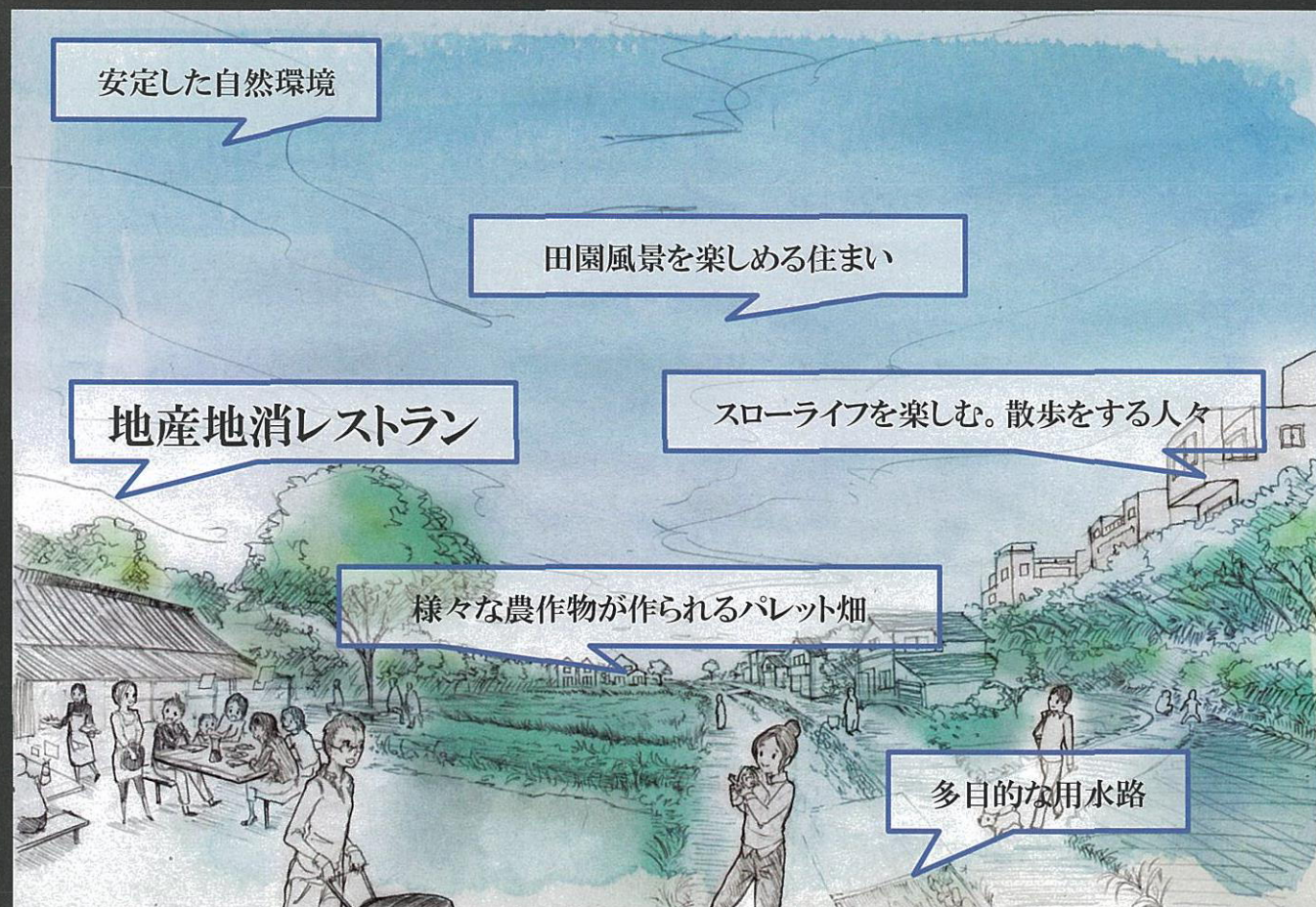
Hino Vision 50 -Hino Mandala/裏路地のオシャレな雑貨屋さん-



- ・高層ビルではなく質・密度の高いサロンのようなコミュニティレストラン、コミュニティカフェ、アンテナショップ等
- ・歴史的な資産(目に見えないモノも含む。敷地割、本陣、路地、蔵、用水路、旧原宿駅から移築した駅舎)等を活かす
- ・名産品を作る
- ・新名所をつくる
- ・こじられた〇〇人限定のお店

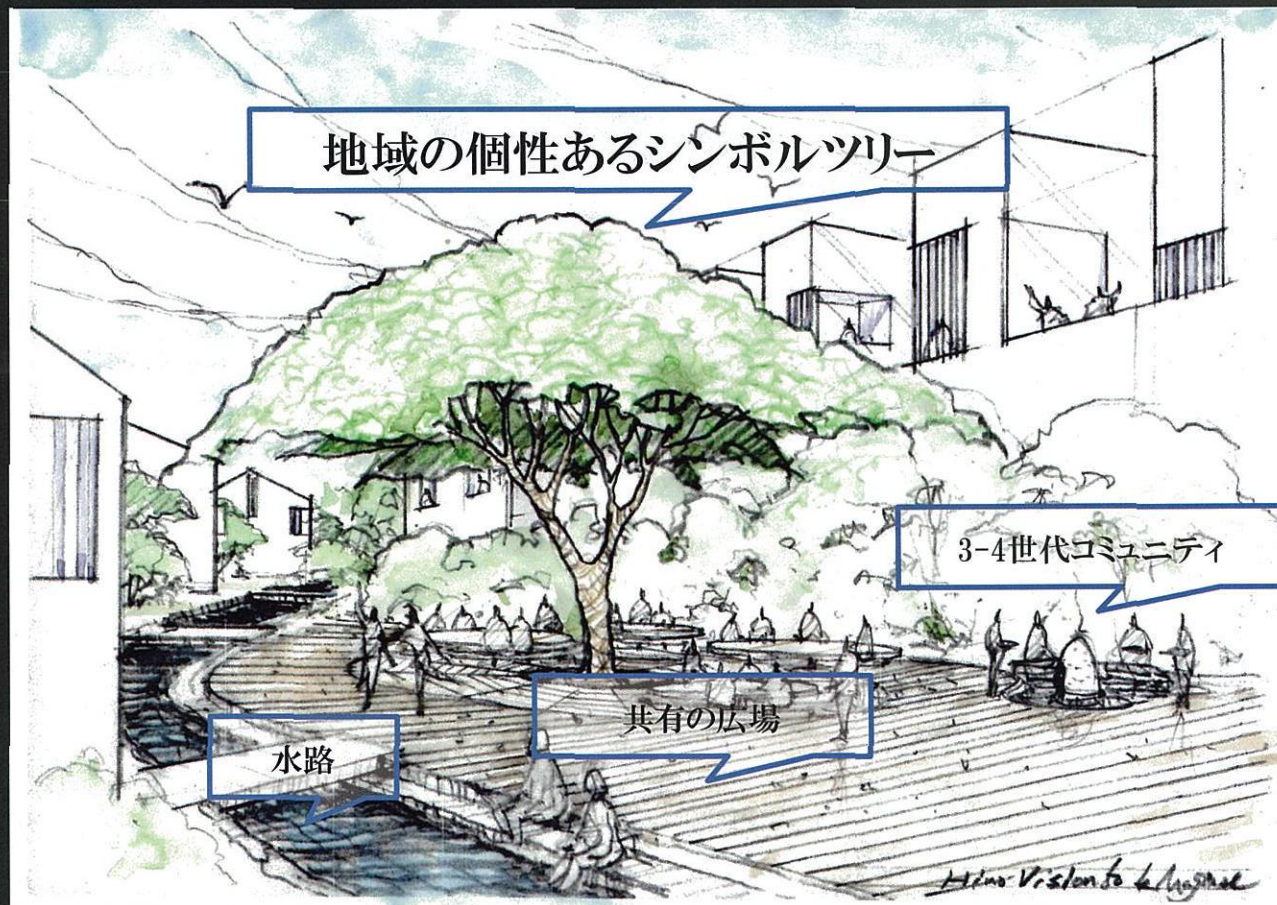
Hino Vision 50 -Hino Mandala/大地と水の恵み -住み続けられる水の郷-

- 50年後、新しい価値を持って守られている農地
- 農地の近くの地産地消レストラン
- スローライフを楽しむ人々
- 多様な意味・目的を持つ農地と用水路
(農業、環境的価値、気候の安定、生物多様性、景観、福祉、教育、遊び、防災、エネルギー等)
- 自立性の高い(食料自給率、経済的自立)豊かな地域を支える安定した自然環境
- 自然の恵みに魅かれて住む人々
- 農家+市民によるコモンズとして守られる農地・用水路、コミュニティガーデン
- オープンガーデン
(個人の庭の開放)



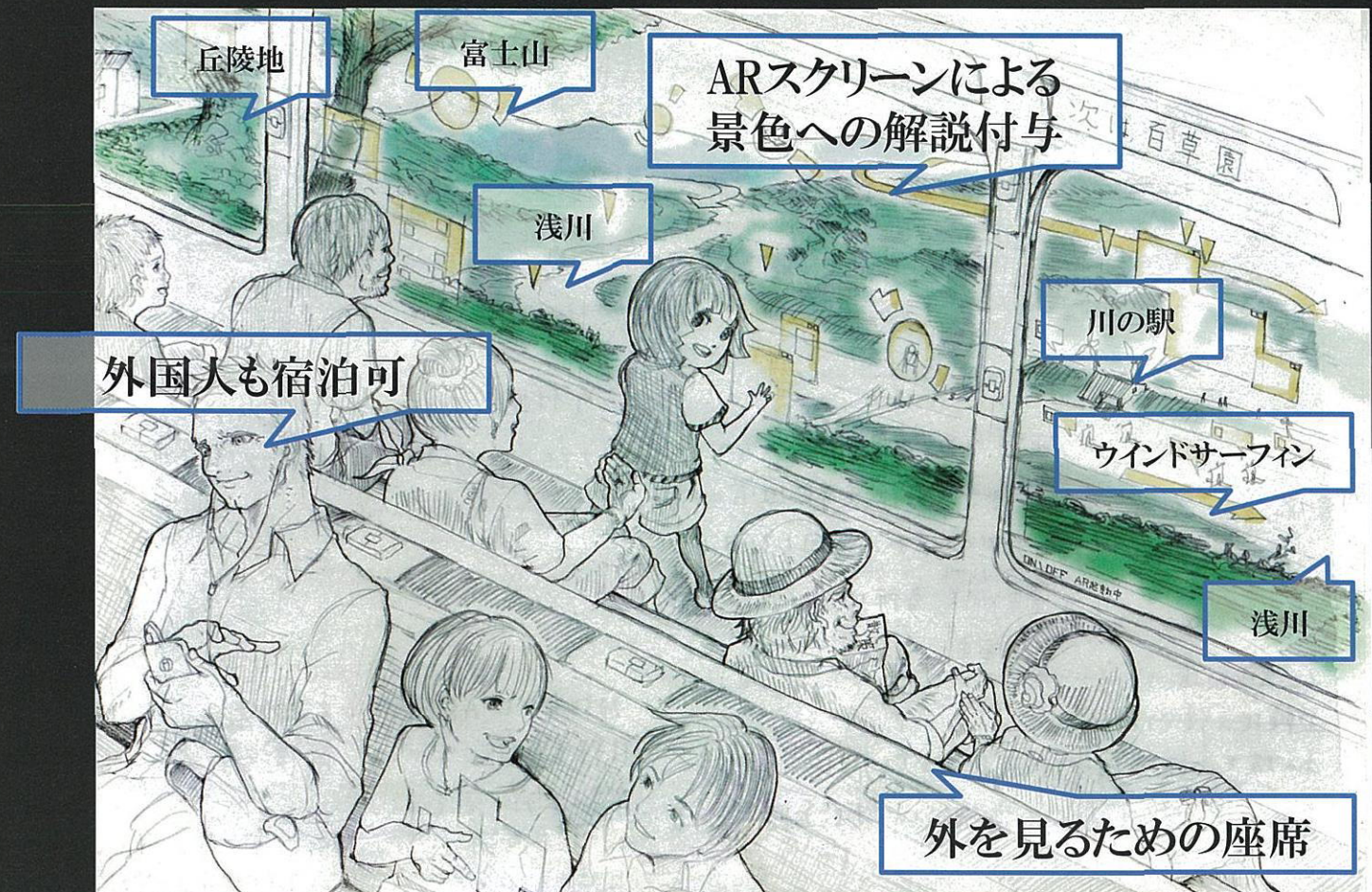
Hino Vision 50 -Hino Mandala/地域ごとの個性的なコミュニティ-

- 地域ごとにそれぞれの物語、世代を繋ぐコミュニティ
- 共有財産としてのシンボル(樹木、文化財、場所)
- 共有の広場
- 子供の遊び場
- 日常的に行われるイベント



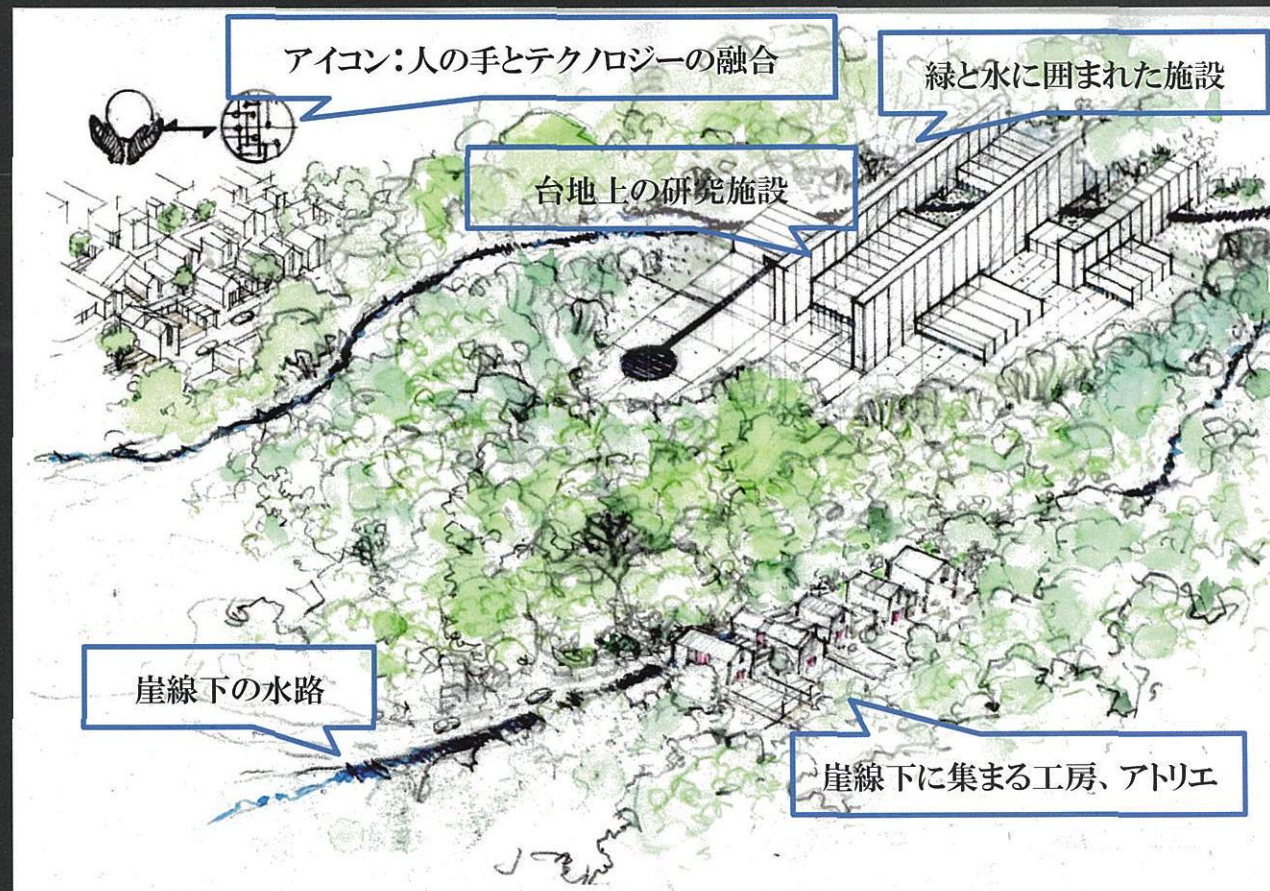
Hino Vision 50 -Hino Mandala/日野を見渡す丘陵地での生活-

- より季節の移り変わりを感ずることのできる丘陵地に
- 日野を周遊できるような巡回バスが誕生した。
- AR(Augmented Reality:拡張現実)技術による日野の一望風景に付加されたデジタル情報
- 新しい丘陵地での楽しみ方
- (空き家の増えた)丘陵の住宅群をリーズナブルにシェアするサービス
- 豊かな環境と観光拠点としての外国人の往来



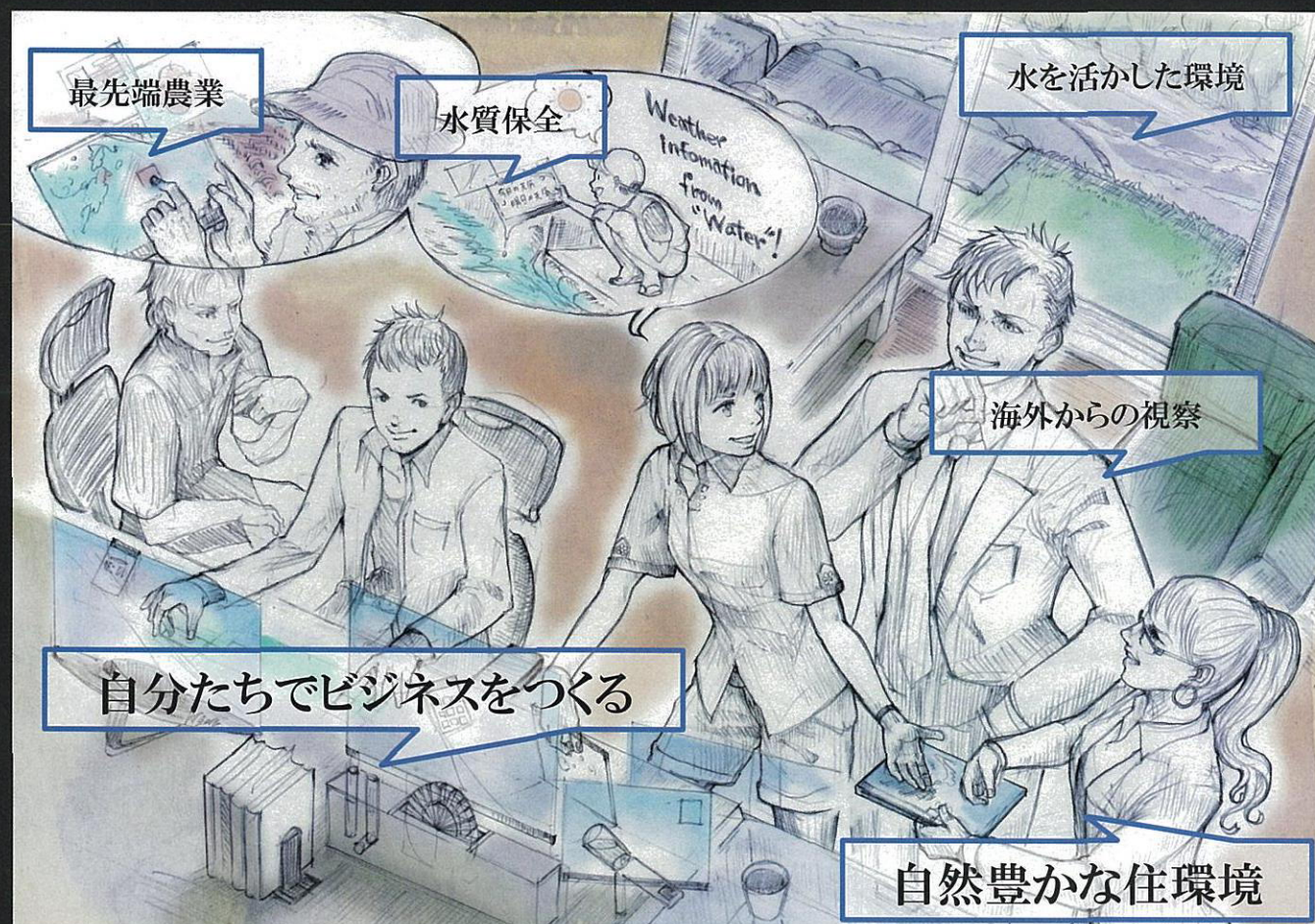
Hino Vision 50 -Hino Mandala/ものづくりの郷、テクノタウンから工房まで-

- ・光る中小企業数百社のネットワークしながらの集合と点在。シナプス。
- ・育つ起業家精神
- ・ベッドタウンから経済的に自立したまちへ
- ・職住近接のゆとりある暮らしへ
- ・雇用の機会の創出
- ・ビジネスモデルの創造
- ・緑が来るから企業が来る。緑に包まれるような生産地
- ・地域に紛れている工房
- ・地場産業、六次産業



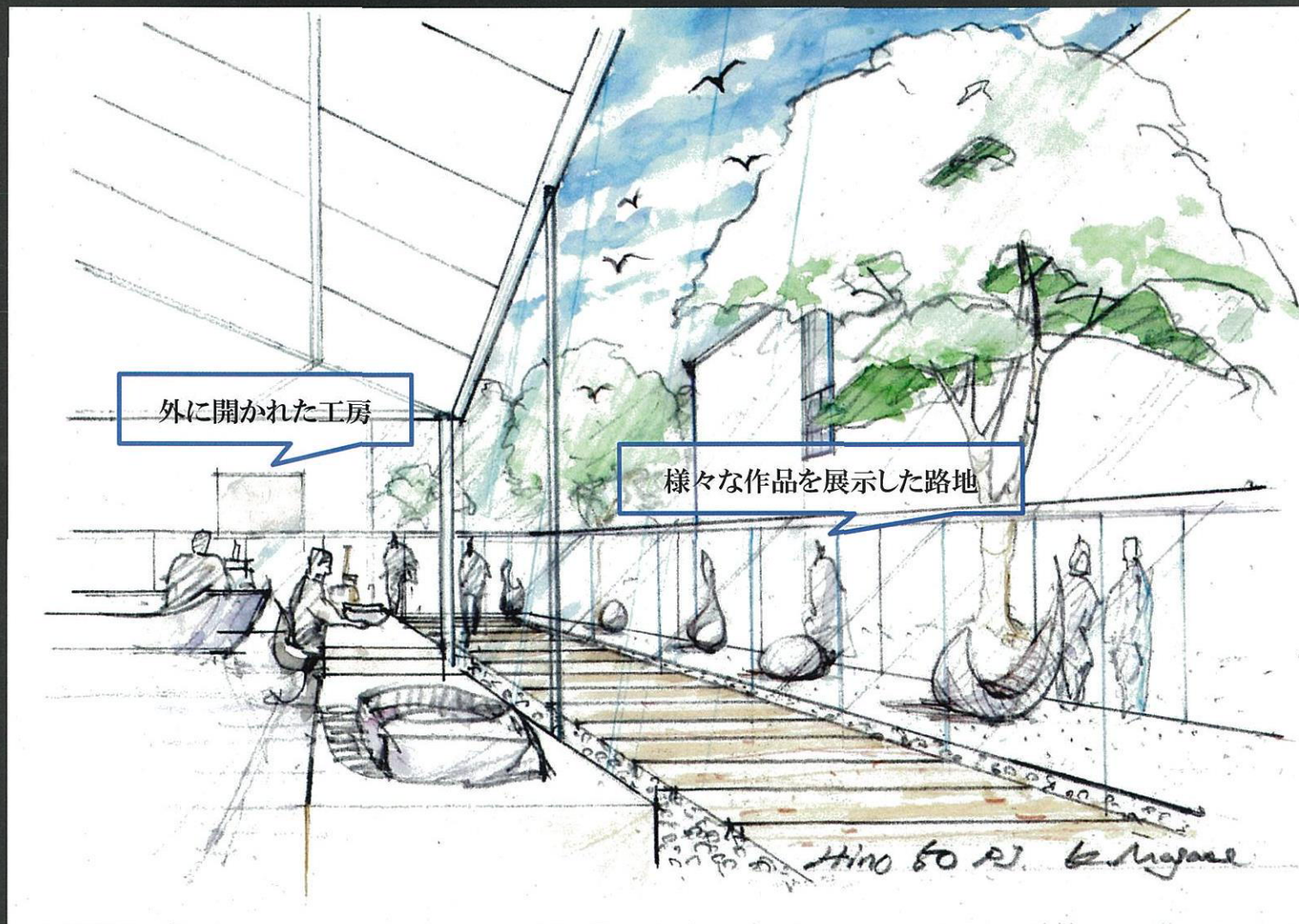
Hino Vision 50 -Hino Mandala/日野の新産業-

- 自宅のような身近な場所で始めるテクノロジー、ITビジネス
- 豊かな住宅環境の中で働く
- 水を活かした次世代テクノロジー
- 最新技術を使ったスマートな農をつくる
- 海外から注目されるような新しい組み合わせ



Hino Vision 50 -Hino Mandala/街中のショーウィンドウ路地-

- 路地を見る楽しみ
- 作る楽しみ。開放された工房・アトリエへ。
- 六次産業に見られる新しい産業



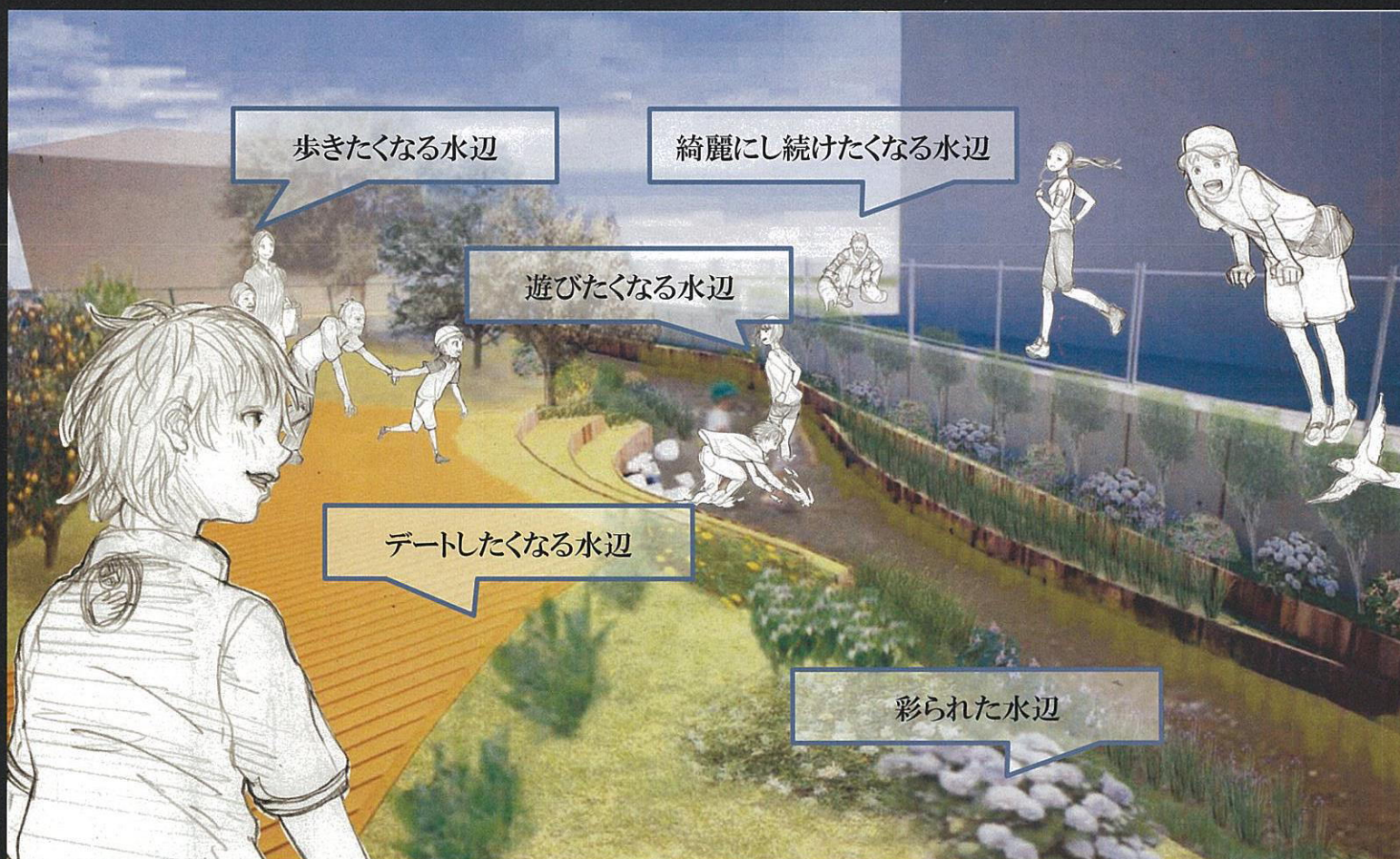
Hino Vision 50 -Hino Mandala/日野の祭り、日野の活気-

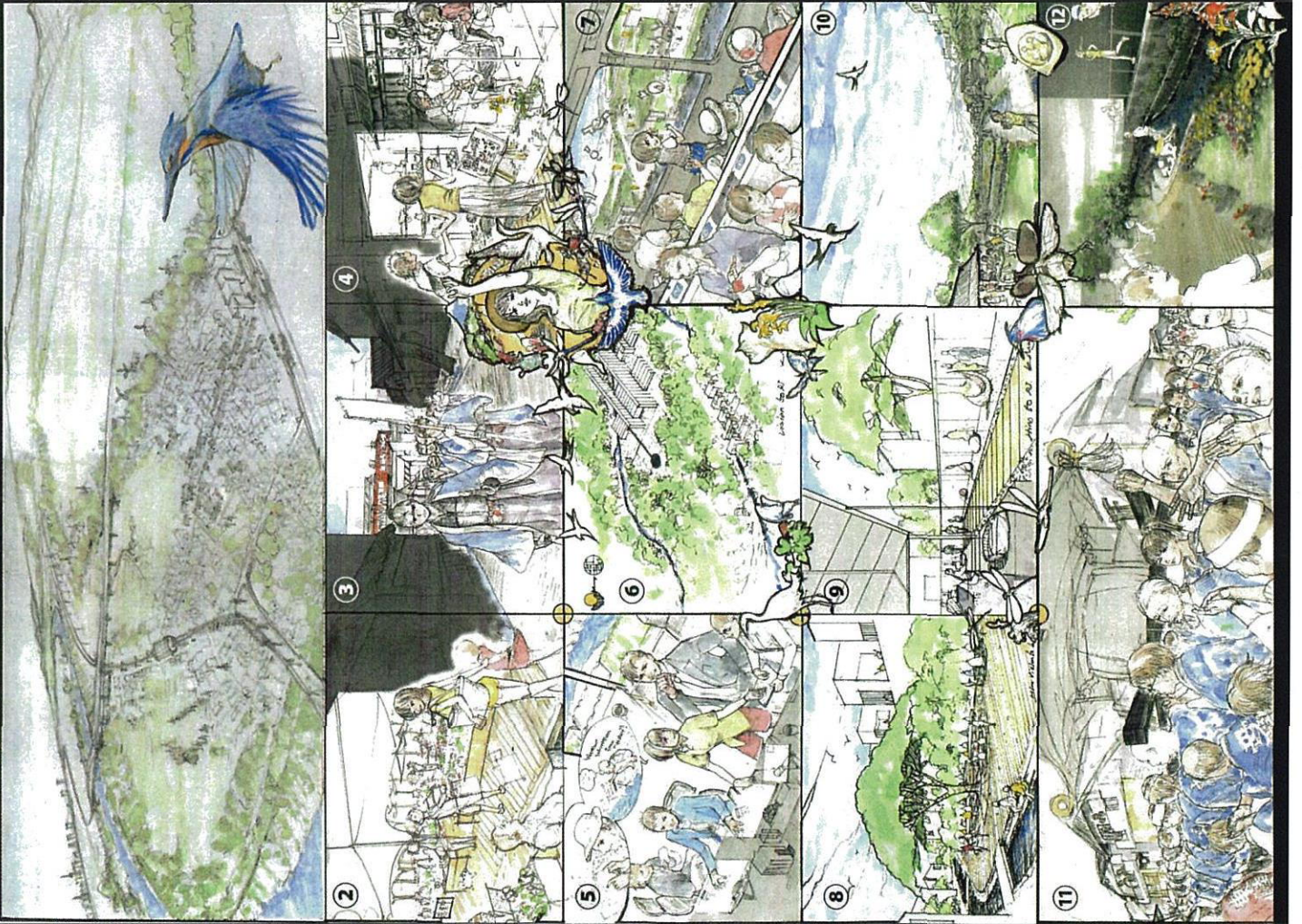
- ・変わる行いと変わらないスピリット
- ・近現代の背景と伝統的な渡御が組み合わさる不思議な風景
- ・それぞれ異なる地域の人同士が交わる機会、コミュニティが見える機会
- ・子供からお年寄りまで、日野中が盛り上がる
- ・いつのまにか参加者



Hino Vision 50 -Hino Mandala/水と緑を繋ぐ、水辺を彩る植栽-

- 多様な意味・目的を持つ用水路
- 遊び、環境教育
- 環境的価値(生物多様性、景観、気候の安定)等
- 大人にとっても価値がある
- スローライフの舞台





～ご協力いただいた皆さん～ 順不同 敬称略

＜50年ビジョンプロジェクト懇談会＞

青山 侑(やすし)
明治大学
公共政策大学院教授



陣内 秀信
法政大学
デザイン工学部建築学科教授



細野 助博
中央大学
総合政策部
兼 大学院公共政策研究科教授



＜市政経営懇談会＞

奥住 方彦、中嶋 ヒロ子、長田 謙一、西久保 秀紀、西村 高幸、旗野 洋、水野 功

＜意見交換会＞

一般社団法人日野市体育協会、日野市スポーツ推進員、日野市文化協会、赤レンガプロジェクト、日野市国際交流協会、ひのアートフェスティバル実行委員会、ふれあいホールプロジェクトチーム、NPO法人日野人・援農の会、東京南農業協同組合、日野市農業懇談会、日野の自然を守る会、ひの・まちの生ごみを考える会、日野市ごみ減量推進市民会議、日野市農業団体連合会、日野市青少年育成会連合会、NPO法人子どもへのまなざし、日野市青少年委員の会、日野市民間保育園連合会、日野市私立幼稚園協会、特定非営利活動法人日野子育てパートナーの会、日野市立小中学校PTA協議会、特定非営利活動法人市民サポートセンター日野、魅力ある授業づくりプロジェクト、日野市商工会、日野市商店会連合会、平山台工業連合会、日野市工業振興基本構想推進協議会、日野市まちおこし連絡協議会、特定非営利活動法人日野市観光協会、社団法人日野青年会議所、日野市民生委員児童委員協議会、日野市赤十字奉仕団、日野市介護保険関連施設連絡協議会、ふれあいサロン協議会、ひのケアマネ協議会、日野市在宅介護事業者協議会、日野・多摩・稲城地区 保護司会日野分區、日野市老人クラブ連合会、日野市健全財政を考える会、ひの市民活動団体連絡会、平山台交流の会、なお「土曜のひろば」遊学会、四中地区・オヤジの会、特定非営利活動法人やまぼうし、多摩平の森自治会、公民館利用者交流会(るーぷ)、倉沢里山を愛する会、豊田団地自主防災会、石坂ファームハウス、日野市消費者運動連絡会

Hino Vision 50 日野曼荼羅

発行・編集 日野市

平成25年3月29日 発行

(問い合わせ先)

日野市企画部 企画調整課 042-585-1111(代)